



図画工作科当日資料



公開授業Ⅰ 9:20-10:05 2年1組 「ふによ むぎゅ きらっ」
公開授業Ⅱ 10:20-11:05 5年1組 「アトて変身」
授業研究会 11:20-12:30 図工室

図画工作科部 秋山紗貴子 中野秀敏

令和7年度研究発表会第2学年1組図画工作科当日資料

佐賀大学教育学部附属小学校 秋山 紗貴子

昨年度、今年度の年間指導計画

	1年生(標準時数 68 時間)	2年生(標準時数70時間)
4月	・ふしぎないろ だいしゅうごう【絵】2時間 ・ねんどでごちそう なにつくろう?【立体】2時間 ・ちよきちよき かざり【工作】2時間	・カラフルシャボン!【絵】1時間 ・ときめき!まほうのキャンディー【立体】2時間 ・しんぶんしてあそぼう!【造形遊び】2時間
5月	・うまれたうまれた へんてこいきもの 【立体】5時間 ・カラフルカップワールド【造形遊び】2時間	・かくれ〇〇みつけたよ!【鑑賞】1時間 ・それいけ!ホーバークラフト!【工作】2時間 ・だんちゃん星のふしぎな生き物たち 【絵や立体、工作に表す】5時間
6月	・先生、あのね【絵】2時間 ・せんたくばさみ つなげて ひろげて 【造形遊び】2時間 ・いっしょにあそぼう ぱくぱくくん【工作】4時間 ・ようこそ すなすなランドへ【立体】2時間	・にぎにぎねん土【立体】1時間 ・ふしぎなたまご【絵】3時間 ・つないでつるしてスパイダー【造形遊び】2時間 ・ビー玉くんの大ぼうけん【絵】3時間
7月	・わくわく どきどき ひみつきち【立体】4時間	・ぷによ むぎゆ きらっ【造形遊び】1時間
9月 実習	・ぺったん コロコロ【造形遊び】2時間 ・うつした かたちから【絵】2時間 ・たいせつボックス【工作】6時間	・わっかでへんしん【立体】2時間 ・音づくりフレンズ【立体】4時間 ・〇〇階だての家【絵】4時間
10月	・いろいろ いろせん【絵】2時間 ・おってたてたら【工作】4時間	・くしゃくしゃ ぎゅっ【立体】1時間 ・とびだせぴよん【工作】6時間
11月	・わたしの おもいで【絵】2時間 ・まんまる まるまる ひろがるせかい【絵】 2時間 ・はこでつくったよ【工作】6時間	・ダンボールに入ってみると!? 【造形遊び】2時間 ・どんなうごきに見えるかな?【工作】6時間 ・であって生まれるいろのせかい【鑑賞】2時間
12月	・しんぶんとなかよし【造形遊び】2時間 ・すきまちゃんのすきなすきま【鑑賞】2時間	・ともだちハウス【立体】3時間
1月	・わたしの ひなにんぎょう【立体】3時間 ・かみからひろがる大ぼうけん 【絵や立体、工作に表す】5時間	・はさみでアート【絵】2時間 ・SDGZoo【絵や立体、工作に表す】5時間
2月	・スルスル ビューン【工作】4時間 ・くろいせかいで 生まれたよ【絵】2時間	・まどをあけたら【工作】6時間 ・ふくろとなかよし【造形遊び】2時間
3月	・だいすき 6年生【絵】2時間	・草花のおしゃべり【鑑賞】2時間
	絵に表す 16時間 立体に表す 15時間 工作に表す 26時間 造形遊び 8時間 鑑賞 2時間 絵や立体、工作に表す 5時間 合計 70時間	絵に表す 13時間 立体に表す 13時間 工作に表す 20時間 造形遊び 9時間 鑑賞 5時間 絵や立体、工作に表す 10時間 合計 70時間
※題材時間に【鑑賞】の時間も含む。		

令和7年度研究発表会 第5学年1組図画工作科当日資料

佐賀大学教育学部附属小学校 中野 秀敏

- I 本年度の実践について
- II 昨年度及び今年度の指導計画
- III 本題材に関わる実践
- IV 本題材について(1~4時目の活動の様子)
- V 本題材の活動内容とマイアートマップ

I 本年度の実践について

本研究では、図画工作科の本質を「児童が、造形的な見方・考え方を自在に働かせながら対象や事象と関わり、意味や価値をつくりだすこと」と定義している。この本質に迫るための研究テーマとして、「児童が学びをつくる図画工作科の授業づくり」を設定し、2年次の研究を進めている。児童一人一人が自分の思いに沿って内容や表現方法、材料、用具、活動場所などを自由に選択できる環境を整え、今までに培ってきた資質・能力、造形的な見方・考え方を自在に発揮できるような自由度の高い造形活動を展開することで「学びをつくる」児童の姿を目指している。

II 昨年度及び今年度の指導計画

表1 昨年度及び今年度の指導計画

	4年生 標準時数 60	5年生 標準時数 50
4月	・ゆめ色ずかん【絵】4時間	・映えろ!色玉美術館【立体】3時間
5月	・まどをのぞいて【造形遊び】4時間 ・コロコロガーレ【工作】6時間	・美しき世界【鑑賞】1時間 ・心のもよう【絵】5時間
6月	・のこぎりギコギコ【立体】6時間	・あんなところがこんなところに【造形遊び】4時間
7月	・まぼろしの花【絵】4時間	・アートで変身【絵や立体、工作】6時間
9月	・つなぐんぐん【造形遊び】2時間 ・幸せを運ぶカード【工作】4時間	・水から発見 ここきれい!【鑑賞】3時間 ・糸のこすいすい【工作】5時間
10月	・光とかけから生まれる【造形遊び】2時間 ・光のさしこむ絵【絵】4時間	・言葉から思いを広げて【絵】4時間 ・光と場所のハーモニー【造形遊び】2時間
11月	・写真をとったら見えてきた【鑑賞】2時間 ・ほってすって見つけて【絵】4時間	・形に命をふきこんで【工作】2時間 ・紙から生まれるすてきな明かり【工作】4時間
12月	・おもしろダンボールボックス【工作】4時間	・美しく立つ針金【立体】5時間
1月	・ようこそ!ゆめのまちへ【立体】6時間	・笑顔が生まれるしかけ【工作】4時間
2月	・きって楽しい きっと使える【工作】5時間	・(子どもとテーマを決める題材) 【絵や立体、工作】5時間
3月	・私の思い出【絵や立体、工作】6時間	↓
合計	絵に表す 16時間 立体に表す 12時間 工作に表す 19時間 造形遊び 8時間 鑑賞 2時間 絵や立体、工作に表す 6時間 合計 63時間 *各題材の時間に鑑賞の時間も含む。	絵に表す 9時間 立体に表す 8時間 工作に表す 15時間 造形遊び 6時間 鑑賞 4時間 絵や立体、工作に表す 11時間 合計 53時間 *各題材の時間に鑑賞の時間も含む。

Ⅲ 本題材に関わる実践

実践1「心のもよう」【絵に表す】全5時間 5月実践

材料や用具に触れながら自分の気持ちを考えたり、生まれた形や色の中から自分の気持ちを見付けたりしながら自分の心を表す題材である。高学年となった5年生の児童は、どのように主題を表すかについて考えることが求められるようになる。多様な用具を活用しながら自分の気持ちという抽象的なものを表現する経験は、本研究会の題材「アートで変身」における「すてきな空間につくりかえる」という発想の場面において特に影響すると考えられる。

児童は自分の表したい心に対するイメージをウェビング(図1)によって広げ、活動に取り組んだ。基底材は数種類の大きさの異なる白色画用紙、四つ切りと八つ切りの色画用紙を準備した。描画材は、教師から「図工室にある道具は全て使っていいよ。」と言葉かけをし、児童自身が多様な用具から自分の思いに合わせて自由に選択できるようにした。筆、ローラー、刷毛、ブラシ、網、ストロー、スポンジ、ぞうきん、紙コップ、ビー玉、クレパス、ボンドなど多様な用具を活用する姿が見られた(図2)。児童は自分の心を表現した画用紙を切り貼りしたり、新たな表現を試したりしながら、作品の再構成を繰り返した。



図1 実践1のマイアートマップ



図2 多様な用具を選択し、活用する児童

図1右側の児童の作品は自分の気持ちではなく、クラス全体の気持ちを作品に表している。始業式の日に教師が問うた「Aの道(成長への道)とBの道(ほとんど変化しない道)のどちらを選びたいですか。」という言葉覚えており、「みんなで成長への道を進みたい。」という思いを作品に表している。紙コップで表した丸は友達一人一人の気持ち、太陽の上にあるちぎり絵のように表された橋は成長への道である。

授業後、この作品をクラスの児童に紹介したところ、「教室に飾りたい!」という反応がたくさん見られ、クラスへの思いが見える作品を好意的に捉える様子であったため、本研究会の題材の導入においてこの作品を活用することにした。

実践2「あんなところがこんなところに」【造形遊び】全4時間 6月実践

場所のもつ形や色、意味や役割といった特徴を基に、新しい視点を見いだして、いつもとは違う空間をつくりだす題材である。高学年の造形遊びは様々な造形経験に基づく総合的な表現活動である側面が大きい。総合的な表現活動である、場所や空間の特徴を生かす活動であるという2つの面での学びは、「アートで変身」における児童の活動に影響すると考えられる。

児童は、身の回りの場所や空間の特徴を生かすという視点をもって、学校の中を見て回り(図3)、マイアートマップに場所の写真、活動イメージ、必要な用具、材料をまとめ、自分の活動を明確化していった(図4)。活動への見通しがもてた児童は、自分の思いに合った活動場所、材料や用具を選択し、活動に取り組んだ(図5)。



図3 学校内を見て回る児童



図4 実践2のマイアートマップ



図5 それぞれの場所で活動する児童の様子

マイアートマップを基に、発想を広げ、構想を明確にして取り組んでいるが、活動の過程で生まれる新たな発想や考えや思いの方向性を検討し直すことも大切にしたいと考えている。本実践においても新たな発想を基に活動を変更する児童も見られたが、その児童の思いを確認し、対話しながらイメージを明確化することで活動変更への支援を行った。また、全体にもその姿を伝えることで、活動中に表れる新たな発想や偶発性、そこから生まれる試行錯誤の過程も大切することを共有した。

活動後の振り返りでは、場所の写真の変化を見比べながら、自分がつくりだした意味や価値を味わい、つくりだす喜びを実感する児童が多く見られた。

IV 本題材について（1～4時目の活動の様子）

①5年1組の学級目標と成長について

本題材の発想や構想の軸となるものが本学級の学級目標である。6月の学級活動の時間に話し合い、以下の目標に決定している。

Aの道を通り越し、Sの道へと走っていく33人～時にはライバル 時には協力 かべをぶっこわせ～

Aの道とは成長への道、Sの道とはAの更の上の成長への道という意味が込められている。100以上出たアイデアから、クラス全員で話し合い、意見を組み合わせながら決定した。本学級が常に立ち返る目標であり、教室後方に掲示している（図6）。また、7月には学級活動の時間に4月から今までの成長について振り返りを行い、自分たちのよさと課題を明確にした（図7）。このような学級づくりの過程を経て、本題材に取り組んでいる。



図6 教室に掲示している学級目標



図7 学級活動での振り返りの様子

②1,2時目（7月11日、7月14日）

1時目では、まず学級の様子をスライドで振り返り、学級のよさや目標を再度確認し、学級への思いを全体で共有した。そして、学級への思いを表した図1の作品を紹介し、その思いに触れることを通して、「アートで教室をすてきな空間につくりかえる」という題材の目標を設定した。その後、すてきという抽象的な表現を具体化するために「すてきな5の1教室とはどんな空間であるか。」と問い、児童の言葉で具体化を行った（図8）。

児童に「校内をすてきな空間にしているものはあるか。」と問うたところ、昨年の6年生が残した卒業制作や保護者が作成してくれている校内の掲示や立体物などの意見が返ってきた。このようにして題材のイメージを明確にした後に、児童一人一人がマイアートマップ（図9）に自分の思い、制作イメージ、必要な材料や用具を書く時間を設定し、発想や構想を広げることができるようにした。また、発想や構想に悩む児童には、身の回りのアート作品や各学年の図工の教科書なども参考にしてよいことを伝え、対話しながら思いを引き出していった。

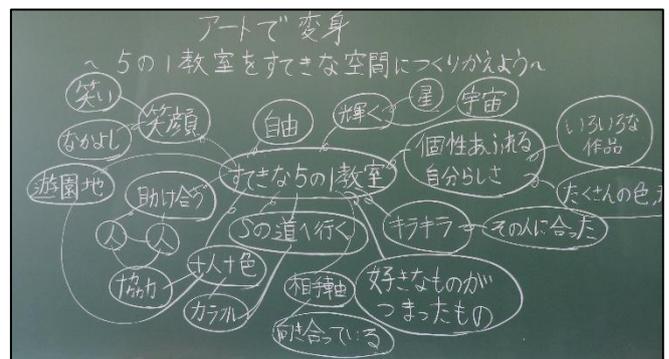


図8 1時目板書（すてきの具体化）



図9 児童のマイアートマップ（2時目終了後）

2時目には図工室から使いたい材料や用具を運び出し、実際に材料や用具を触りながら発想や構想を広げる時間を設定した（図10）。実際に材料に触れることで制作イメージを明確にし、マイアートマップに書き加えを行う姿が見られた。マイアートマップの見取りを基に、発想や構想において悩む児童に支援を行った。児童の思いを引き出しながら、材料を提示したり、似たような活動をしている友達を紹介したりすることで発想や構想を明確化することができた。本題材の材料は題材デザインシートや児童のマイアートマップを基に使うと予想されるものを準備した。1時目の制作イメージを基に自分で材料を準備してきた児童も見られた。活動内容は絵に表す児童が11名、立体に表す児童が11名、工作に表す児童が11名であった。



図10 材料に触れながら発想や構想を広げる児童（2時目）

③3、4時目（7月17日）

3時目からは本格的に作品制作に取り組んだ。児童は活動しやすい場所を選択し、机の上、棚の上、廊下などで活動する姿が見られた（図11）。また、似たような表現をしている児童は自然に集まる姿も見られ、対話し、表現をよりよくしようとする姿も見られた。



図11 活動場所をそれぞれ選択し、表現する児童（3、4時目）

作品への思いはあるものの、自分のイメージを具体化することに悩みを抱える児童が数名見られたため、使用する材料を基に、対話しながら作品の方向性を具体化したり、接着方法などの技能面の支援を行ったりした。本題材は、児童の多様な活動が展開されるため、マイアートマップを見取りの手段の一つとすることで児童の思いに沿った言葉かけや支援を行うことができた。4時目終了後、マイアートマップにて振り返りを行い、次時への見通しにもつことができるようにした(図12)。

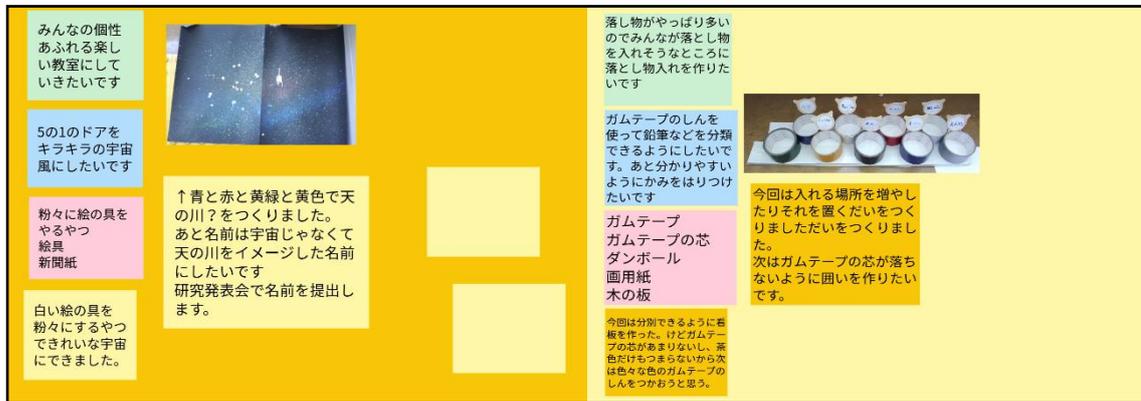


図12 児童のマイアートマップ(4時目終了後)

V 本題材の活動内容とマイアートマップ

【絵に表す】10名

OSの道へ向かう様子 ○窓閉めボード ○個性が輝く絵 ○キラキラの宇宙 ○メッセージを発するキャラ
OSの道への努力 ○ドアを閉める絵 ○個性あふれる絵 ○33個の笑顔 ○OSの道へ行く虹色の絵

【立体に表す】10名

OSへの道 ○水筒忘れを減らす人 ○本を読む人 OSの道へ向かう人 OSへの階段と橋
OSへの階段 ○食品ロスを減らす食べ物 ○助け合い OSの道へ進む34人 OSの道へ行く橋

【工作に表す】13名

○落とし物入れ ○忘れ物ボックス ○チョーク入れ ○落とし物ボックス ○ボール入れ ○ウェルカムボード
○係活動ボード ○落とし物ボックス ○認め合いボード ○節電ボード ○ペン立て OSの道に行く様子
○ペン立て

*2時目終了後から制作内容が変化した児童が数名見られている

【児童のマイアートマップ】 *以下のQRコードを読み込むとデジタル掲示板に飛びます



本日はご参加いただき誠にありがとうございました。

本日の公開授業、授業研究会の感想を以下の QR コードよりフォームに記入をお願いいたします。

【公開授業、授業研究会】



【公開授業Ⅰ 図画工作科 ふによ むぎゆ きらっ】



【公開授業Ⅱ 図画工作科 アートで変身】

